

「家がいいね」第89号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2011. 10. 4

柿が赤くなりましたが・・・

医者が青くなるのは昔の話かもしれませんね。私の場合はそれほどでもありませんが、健診とがん検診の時期とて、真っ赤になって頑張っておられる先生も多いと思います。急に冷え込み、衣替え早々に晩秋の気配もあるようです。お体に「ご注意ください」。



在宅医療は、予測運転と同じ

信号も車も流れがあり、それが分ればスムーズでエコな運転ができます。見通しの良い道路だと、信号が次々変わるタイミングは予測できます。歩行者信号の点滅は、黄色点灯の前兆ですし、交差する信号の表示も参考になります。その信号が見えなくても横断する車の流れが止まるようなら、まもなくこちらが赤から青になります。これらの情報を意識していない場合、信号までダッシュしてブレーキを踏み、またアクセルを吹かす事になり、同乗させてもらって緊張もします。お客を載せているプロの車はこんな走り方はしません。在宅医療はちよつと予測運転と同じです。色々な症状（サイン）を信号（シグナル）として、早め早めに確認し、将来に起こりうる変化に細かに対応します。



在宅では医療と通常より療養として日常生活維持を目標に、安全運転ができます。臨終ですら日常の運転の到着地点です。平穏な死を想像できれば、看取りも難しいものではありません。

四日市市民大学での感想

9月29日(木)45名の生徒?さんに、エンディングノートを説明しました。一緒の時間を共有できるのが、何よりの有縁だと思いました。

今の世は、望めば一人暮らしは、無縁であってもできるのです。生も死も病院で管理してもらい、葬式は葬儀社、遺品整理も専門の会社、墓参りも代行する会社まである利便さです。任せきりではどう生きたらいいのか自分にも見えなくなってきたのが、ノートが着目される背景です。でも「上手に」とか「自分らしく」と一人で書くのが目的ではなく、家族と改めてお互いの思いを通わせるのが、このノートの実際の効用かなとお伝えしました。

「プロの流儀」を考える

10月2日には、秋山正子さんのお話を聴く機会がありました。訪問看護以上に興味のある話題は、地域に上質のがん相談支援の場を作り始められたことでした。東京新宿の高齢化が著しい都営住宅の一角で、「暮らしの保健室」と名付けられた日本版マギーセンターは、縁の家が目指すもののように思えました。創始者のマギーさんは乳がんの患者さん。患者みずからが本来の力を取り戻すためには、それにふさわしい「場」＝サポートセンターが必要と、英国での創設の経緯もお聴きました。



臨時休診

10月8日は研究会に出張のために休ませてください。なお、8日～10日の間は、連携の医師と当院訪問看護師が対応させていただきます。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
新木-ム-ジ <http://isezaitaku.com>